

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 5 年 1 2 月 調査結果 - -

(平成 1 5 年 1 2 月 2 6 日)

調査期間：平成 1 5 年 1 2 月 1 5 日 ~ 1 9 日

調査対象：全国の 4 0 2 商工会議所が 2 5 7 1 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 2 製造業 6 3 0 卸売業 2 3 0
小売業 7 3 4 サービス業 5 9 5

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成15年12月調査結果のポイント】

業況D Iは2カ月連続で悪化、景況は依然、不透明感が続く

12月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（38.7）よりマイナス幅が0.3ポイント拡大して39.0となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

業種別の業況D Iは、製造、小売を除く3業種でマイナス幅が拡大したため、全産業合計の業況D Iもマイナス幅が若干拡大した。製造業を中心に、業況は好調との声はあるものの、依然D I値は低水準で、中小企業の足元では景況の停滞感が根強い。景気の先行きについても、期待するとの声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷、競争激化など、不透明感を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「景気の回復は多少みられるだろうが、この業界の売上にはまだ影響を及ぼしていない」（一般工事）、「年末までの工事量が不足している」（一般工事）、「長期にわたる不況と公共事業の減少で、悲観的な声が今まで以上に多くなってきた」（一般工事）と、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「全般的に受注は活発」（自動車、附属品）、「輸出が好調のため仕事量は安定している」（金属加工機械）と、業況は引き続き好調との声が寄せられる一方、「11月までは好調だったが、今月に入り受注がやや減少」（印刷）との声や、「業況は活発だが、仕入れ単価の上昇により採算面が苦しい」（鉄素形材）、「米、豆などの原材料が高騰しており、採算ぎりぎり」（パン、菓子）と、仕入れコストの上昇を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「食品関連はやや上向き」（各種商品）との声があるものの、「地域の卸売業販売額は前年割れの状態が大半で、特に一般消費者向け商品卸が苦戦しており、年間売上高も多くの企業で前年を下回るものと推測される」（各種商品）、「取引先の小売店の廃業が多く、卸売業には厳しい環境」（各種商品）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「正月に向けての日用品、食品の売上が好調」（百貨店）、「年末の売上に期待」（商店街）といった声の一方、「お歳暮商戦によりある程度の売上を確保したが、予想の範囲内」（百貨店）との声や、「以前にも増して、大型店との年末売り出し競争が激化している」（飲食料）、「暖冬による冬物衣料、防寒商品、住居暖房商品、鍋物商材の売れ行き鈍化傾向が継続している」（百貨店）といったコメントが寄せられている。

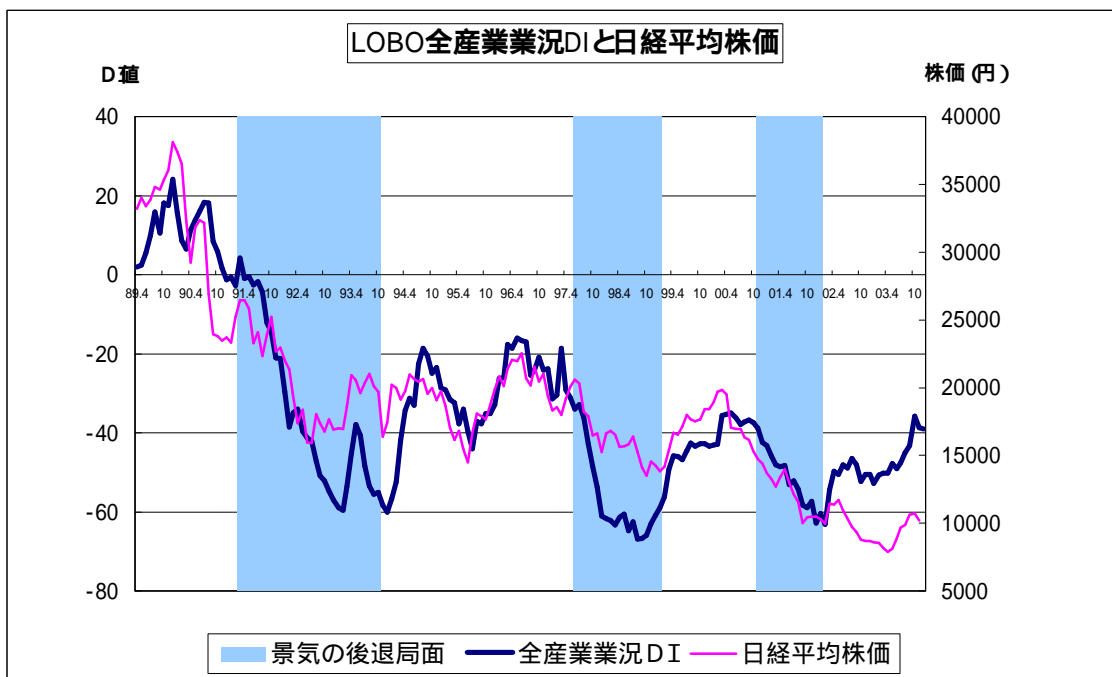
【サービス業】では、「12月に入って動きが出ており、昨年よりやや良い」（食堂、レストラン）との声の一方、「雰囲気的には良い方向に向かいつつあるが、販売の面では良くない」（旅行）、「悪いまま横ばいで、年末年始の忘年会、新年会もそれほど期待できない」（一般飲食店）といった声や、「衣類の購入価格が安いためか、クリーニングの代金を払う人もいるうえ、安い衣類のクリーニングは注意も必要で、手間のかかる割に売上増にならない」（洗濯）と、引き続きデフレの影響を訴えるコメントが寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、卸売、サービスで前月水準より拡大したが、製造、小売で縮小したため、全産業合計の売上D I は0.5ポイント縮小して 35.3 となり、2 カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、小売を除く3 業種で前月水準より拡大したため、全産業合計の採算D I は0.3ポイント拡大して 37.4 となり、2 カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3 カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース) が 35.7 と、昨年同時期の先行き見通し(44.9)と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、景況感に回復の兆しとの声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷、競争激化などを訴えるコメントが、依然として多く寄せられている。



【業況についての判断】

12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（38.7）よりマイナス幅が0.3ポイント拡大して39.0となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

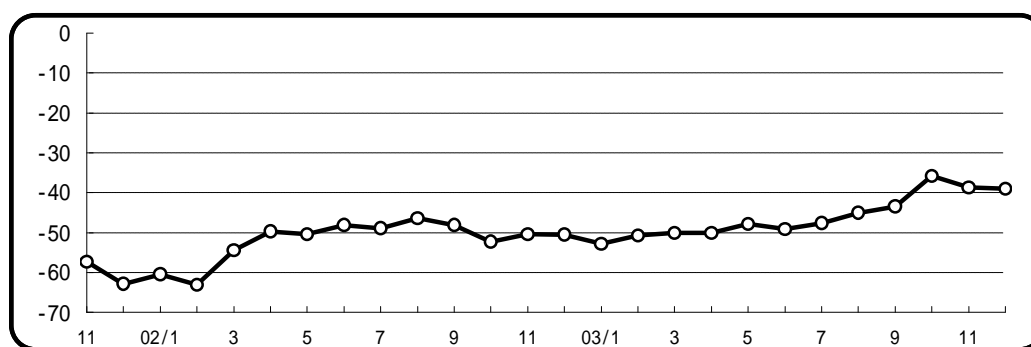
向こう3カ月（1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が35.7と、昨年同時期の先行き見通し（44.9）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	15年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	47.6	45.0	43.4	35.8	38.7	39.0	35.7 (44.9)
建設	59.0	57.2	54.6	53.6	54.4	55.6	53.5 (55.5)
製造	37.3	31.8	31.7	24.6	23.0	18.9	28.2 (46.3)
卸売	47.0	52.1	41.1	36.5	40.7	53.7	36.6 (38.6)
小売	50.0	48.2	48.3	34.1	47.8	45.6	36.5 (43.1)
サービス	48.9	44.4	43.6	38.0	33.3	35.9	30.4 (40.9)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年12月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

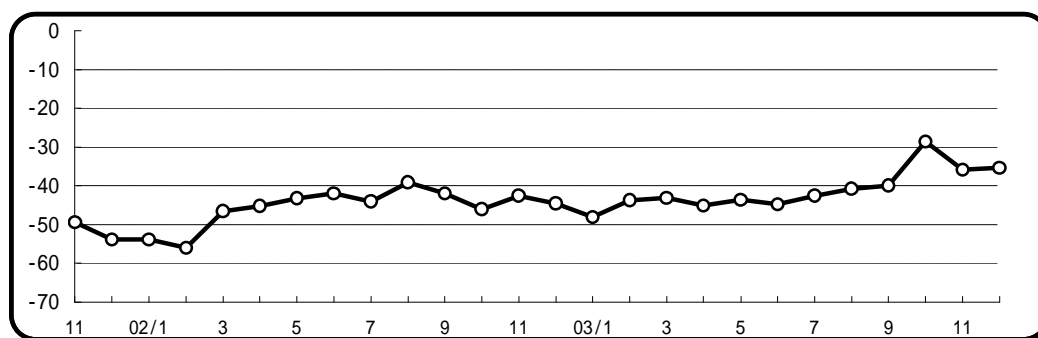
売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、卸売、サービスで前月水準より拡大したが、製造、小売で縮小したため、全産業合計の売上D I は0.5ポイント縮小して 35.3 となり、2 カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3 カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 32.2 と、昨年同時期の先行き見通し(41.8)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	15年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	42.5	40.7	39.9	28.5	35.8	35.3	32.2 (41.8)
建設	52.0	50.9	50.9	41.6	47.4	48.2	50.4 (47.0)
製造	31.0	24.3	24.4	14.2	17.4	13.1	22.0 (42.9)
卸売	45.2	46.7	36.8	30.5	39.5	43.3	37.2 (41.6)
小売	46.7	48.5	47.2	30.2	51.2	45.7	34.7 (40.2)
サービス	42.8	39.6	41.8	33.0	27.7	34.9	25.8 (38.9)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

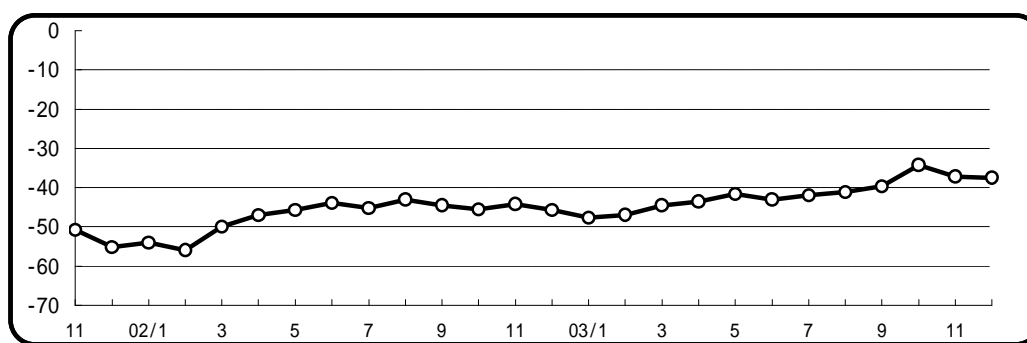
採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、小売を除く3業種で前月水準より拡大したため、全産業合計の採算D I は0.3ポイント拡大して37.4となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が31.5と、昨年同時期の先行き見通し(39.5)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	15年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	41.9	41.1	39.6	34.2	37.1	37.4	31.5 (39.5)
建設	60.1	56.2	56.4	54.4	55.8	55.3	51.4 (52.7)
製造	36.9	31.1	33.3	28.5	25.3	27.3	27.6 (43.1)
卸売	42.8	40.1	36.2	30.5	35.2	43.9	32.9 (34.3)
小売	34.8	40.3	37.5	27.7	43.1	36.7	28.0 (31.4)
サービス	43.8	43.2	38.6	36.5	31.0	34.5	25.8 (38.8)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	15年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	31.5	30.8	29.0	28.3	27.4	28.3	26.7 (33.2)
建設	46.6	44.0	44.3	44.6	41.7	44.2	42.2 (47.3)
製造	27.6	26.9	24.0	24.3	21.7	23.5	24.4 (36.1)
卸売	28.9	32.1	26.4	21.3	22.9	28.4	25.0 (29.4)
小売	26.5	27.8	26.8	26.1	26.6	25.4	23.7 (25.1)
サービス	31.3	27.9	27.2	26.5	26.0	25.3	23.3 (31.9)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】小売、サービスを除く3業種で悪化超感が強まり、全産業合計でも10カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	15年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	3.2	4.4	4.7	5.4	3.2	4.4	5.1 (4.3)
建設	1.8	2.8	0.4	1.5	1.8	3.3	4.0 (3.6)
製造	14.7	13.3	10.3	14.1	14.3	16.2	14.6 (13.5)
卸売	1.2	3.6	0.6	0.6	8.6	9.3	0.6 (3.6)
小売	2.0	0.8	2.9	0.4	2.1	2.0	1.6 (3.3)
サービス	1.8	6.4	5.3	7.8	3.2	5.3	6.1 (4.8)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】卸売を除く4業種で上昇超感が強まり、全産業合計でも2カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】卸売を除く4業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	15年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	14.6	11.3	10.9	9.3	10.1	9.5	12.0 (16.2)
建設	33.5	28.3	27.3	22.7	23.4	21.5	28.1 (27.7)
製造	18.6	13.2	14.1	10.9	11.2	8.7	13.7 (22.8)
卸売	15.1	10.2	9.8	9.6	12.3	11.0	12.5 (16.4)
小売	6.1	5.5	3.1	4.6	5.8	5.8	6.7 (8.3)
サービス	7.7	4.8	5.8	3.8	3.7	6.3	5.0 (10.4)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】サービスで過剰超感が強まり、小売では横ばいとなったが、他の 3 業種で弱まり、全産業合計でも 2 カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通し D I】建設を除く 4 業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成15年12月の景気キーワード】

先行き不透明感

依然として、各業種から景気の先行きに対する不透明感を訴える声が寄せられている。建設、製造からは「公共事業が減少することは確実だが、業者数はあまり減っておらず、過当競争となるおそれから業界の見通しは暗い」(酒田・一般工事)、「少しずつ上向きの方角に進んでいるが、12月だけのように感じられ、多くの社員を抱えている会社は資金繰りも大変」(鎌倉・塗装工事)、「輸出産業、IT・半導体関連が景気を引っ張っているが、先行きは円高のため不透明」(下館・金物類製造)、「売上は回復基調にあるが、製品単価の低下が大きくなっている」(和歌山・有機化学製品製造)、「半導体関連企業の受注は伸びているが、受注単価は厳しい」(国分・産業用電気機械)、「主要輸出市場である中国向けの生産は引き続き現状を維持しているが、先行きの受注に陰りが見えはじめてきた」(大阪・繊維機械製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも「卸売業は非常に悪く、なかなか光が見えてこない」(高岡・衣服、日用品卸)、「大企業の好決算などの一方、公務員の減棒・ボーナス減などマイナスの要因が実態以上に先行き不透明感を強くし、消費者の財布の紐を締めている」(銚子・商店街)、「昨年に比べ忘年会の予約は増えているが、忘年会と新年会の両方を行う客が少なく、年明けはあまり良い見通しではない」(伊那・食堂、レストラン)、「景気が上向きに思えてきた矢先に足利銀行の破綻など暗いニュースが多く、先行き不安」(小山・食堂、レストラン)といったコメントが寄せられている。

回復への期待感

製造業を中心に、引き続き業況は好調との声も寄せられている。「新規受注高は昨年に比べ、多少増加した」(福島・建築工事)、「お歳暮シーズンに入り、水産加工品の動きが好調」(釧路・水産食料品製造)、「受注が好調に推移し、一部倉庫、工場の増設の話も出てきており、工場内作業員は不足気味」(北上・電気機器製造)、「建設機械、繊維機械、工作機械メーカーは多忙を極めており、その下請企業も多忙」(金沢・金属製品製造)、「発注元が見込み発注から当座発注に切り替えているため、集中的な発注が増加し多忙を極めている」(横浜・衣服製造)、「鉄鋼の中国向け輸出が好調であるのに伴い、石灰の出荷も順調」(大垣・その他窯業、土石)といった声が寄せられている。また、「IT関連業種は売上・利益が伸びている」(下関・各種商品卸)、「お歳暮関連では食料品を中心に売上を伸ばしており、その他では衣料品や化粧品の動きが良い」(水戸・百貨店)、「宴会部門は件数、客数とも増加し、クリスマスケーキ、おせち商品の動きも好調に推移」(札幌・旅館)、「これまでは売上は横ばいだったが、12月に入り忘年会・宴会が昨年に比べ多少増加している」(北九州・食堂、レストラン)、「少しずつ上向きの傾向がうかがえるので、年末年始の祝賀ムードでの集客に期待をかけている」(七尾・旅館)との声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
15年10月	回復への期待感	先行き不透明感	企業間格差
11月	先行き不透明感	回復への期待感	天候の影響
12月	先行き不透明感	回復への期待感	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「景気の回復は多少みられるだろうが、この業界の売上にはまだ影響を及ぼしていない」(一般工事)、「公共工事は依然として件数は前年並み、受注金額は前年を割る低水準で推移しており、収益状況、資金繰りとも悪化し業況は非常に厳しい」(一般工事)、「年末までの工事量が不足している」(一般工事)、「長期にわたる不況と公共事業の減少で、悲観的な声が今まで以上に多くなってきた」(一般工事)、「受注が少ない上に物件も売れないため、今後各社とも売却価格を下げていくと予想される」(建築工事)といった、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。
製 造	業況D Iは6カ月連続、売上D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小し、採算D Iは3カ月ぶりに拡大した。「全般的に受注は活発」(自動車、附属品)、「輸出が好調のため仕事量は安定している」(金属加工機械)、「建設機械が絶好調でフル稼働の状況。繊維機械や工作機械も好調を維持しており、一部では作業員不足も発生し、生産効率の向上を目指す設備の更新も散見される」(金属加工機械)と、業況は引き続き好調との声が寄せられている。一方、「11月までは好調だったが、今月に入り受注がやや減少」(印刷)との声や、「業況は活発だが、仕入れ単価の上昇により採算面が苦しい」(鉄素形材)、「米、豆などの原材料が高騰しており、採算ぎりぎり」(パン、菓子)、「段ボール箱が安くない」(食料品)と、仕入れコストの上昇を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況、売上、採算D Iとも2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「食品関連はやや上向き」(各種商品)、「業況は以前と変わらないが、経費削減により収益は増加している」(農畜産水産物)との声があるものの、「地域の卸売業販売額は前年割れの状態が大半で、特に一般消費者向け商品卸が苦戦しており、年間売上高も多くの企業で前年を下回るものと推測される」(各種商品)、「取引先の小売店の廃業が多く、卸売業には厳しい環境」(各種商品)といった声が寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「正月に向けての日用品、食品の売上が好調」(百貨店)、「年末の売上に期待」(商店街)との声や、「中国産などの安い物だけでなく、物によって良いものは高くても売れる」(商店街)といった声の一方、「お歳暮商戦によりある程度の売上を確保したが、予想の範囲内」(百貨店)との声や、「以前にも増して、大型店との年末売り出し競争が激化している」(飲食料)、「暖冬による冬物衣料、防寒商品、住居暖房商品、鍋物商材の売れ行き鈍化傾向が継続している」(百貨店)といったコメントが寄せられている。
サービス	業況、採算D Iは6カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「12月に入って動きが出ており、昨年よりやや良い」(食堂、レストラン)との声の一方、「雰囲気的には良い方向に向かいつつあるが、販売の面では良くない」(旅行)、「悪いまま横ばいで、年末年始の忘年会、新年会もそれほど期待できず」(一般飲食店)、「景況はほんの少し上昇すると思ったが、再び横ばいの感じがする」(そば、うどん店)といった声が寄せられている。また、「衣類の購入価格が安いためか、クリーニングの代金を渋る人もいるうえ、安い衣類のクリーニングは注意も必要で、手間のかかる割に売上増にならない」(洗濯)と、依然としてデフレの影響を訴えるコメントも寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)をみると、北海道、関東、東海、近畿、九州の5ブロックでマイナス幅が縮小したが、他の4ブロックで拡大したため、全ブロック合計でも若干拡大した。

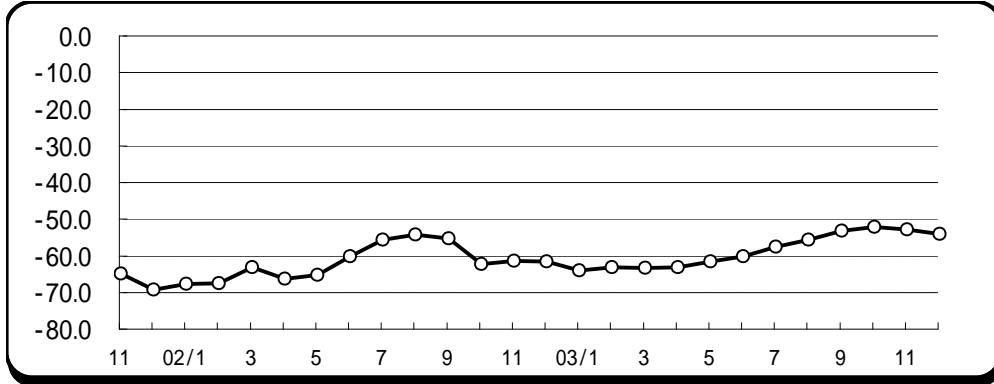
ブロック別の向こう3カ月(1月~3月)の業況の先行き見通しは、東北を除く8ブロックで昨年同時期と比べ改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

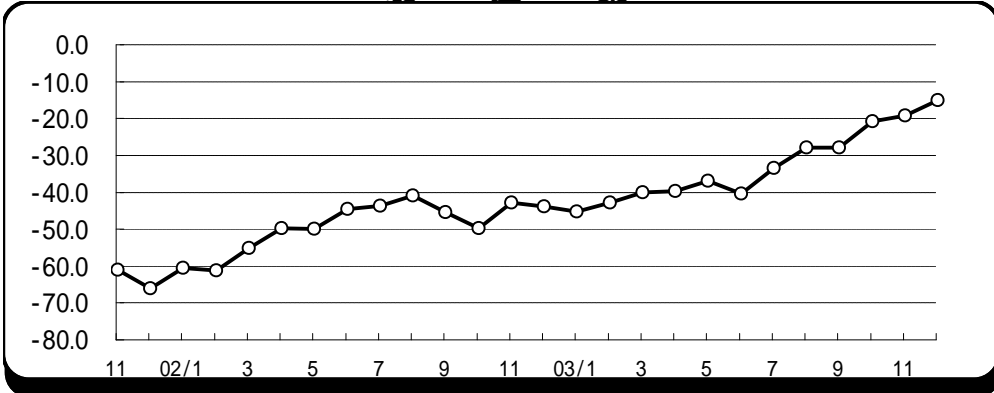
	15年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全 国	47.6	45.0	43.4	35.8	38.7	39.0	35.7 (44.9)
北海道	39.8	40.7	37.0	34.5	37.7	33.6	37.0 (49.6)
東 北	46.7	48.8	42.4	41.5	41.8	48.9	48.3 (43.6)
北陸信越	42.1	44.0	46.0	33.1	35.7	37.0	35.8 (44.6)
関 東	50.0	47.2	44.1	28.4	35.7	33.9	27.4 (40.6)
東 海	46.7	41.9	46.5	31.3	36.1	32.1	31.0 (46.2)
近 畿	48.3	39.6	43.7	42.9	45.0	43.6	44.0 (49.4)
中 国	43.8	46.1	41.3	36.2	36.6	44.4	35.9 (51.3)
四 国	58.5	49.6	39.6	40.4	39.6	44.2	36.3 (49.5)
九 州	50.0	47.3	45.9	41.6	40.1	38.9	34.2 (37.9)

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

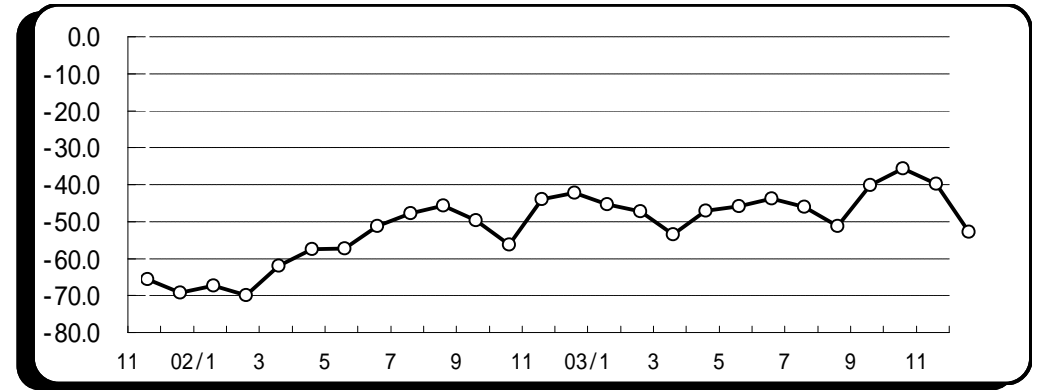
建設業



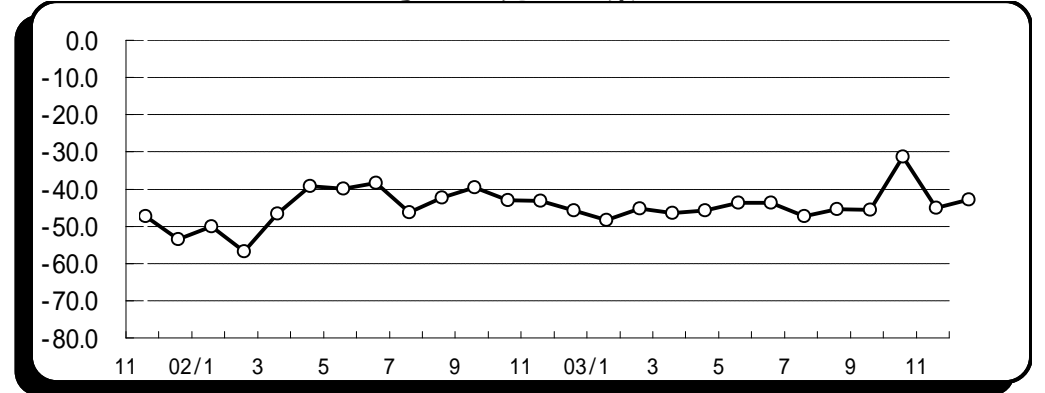
製造業



卸売業



小売業



サービス業

